

2020 年度

学生生活調査報告書



Shizuoka University of Welfare

静岡福祉大学

目 次

あいさつ	1
序 章 調査の概要	2
第1章 学業	
1-1 大学での勉強の重要性	3
1-2 授業に対する理解	3
1-3 学修時間	3
1-4 学業についての教員との会話	4
1-5 履修科目の選択方法	4
FD委員会からのコメント	5
第2章 進路・キャリア支援	
2-1 卒業後の進路	6
2-2 取得したい資格	6
2-3 将来設計（進路）への不安	7
2-4 キャリア支援課の活用	7
2-5 キャリア支援課への要望や質問	7
キャリア支援課からのコメント	8
第3章 学生生活	
3-1 アルバイトの状況	9
3-2 車の免許	9
3-3 同居家族の有無	10
3-4 学生食堂	10
3-5 通学時間	10
3-6 通学手段	10
3-7 大学でのボランティア活動への参加	11
3-8 学友会主催行事の満足度	11
3-9 行事に対する要望や意見	12
3-10 学友会活動への参加	12
3-11 大学生活の充実度	12
3-12 興味・関心	13
3-13 掲示板の使用	13
3-14 Eメールの利用	14
3-15 学生マナーについて	14
3-16 学内外でのトラブル	14
3-17 学生生活への悩み	15
3-18 退学について	16
3-19 オフィスアワーについて	16
3-20 学生支援総合センターについて	16
学生支援総合センターからのコメント	17
第4章 大学	
4-1 本学の理念（建学の精神）の認知	18
4-2 大学生活の満足度	18
4-3 施設や制度、対応等大学への要望や意見	19
学生厚生委員会からのコメント	20
総務課からのコメント	21

調査から見てきた本学の課題、そして解決に向けた努力

静岡福祉大学
学長 太田晴康

2020年度の学生生活調査報告書をお届けします。

在学生を対象とする学生生活調査は本学が毎年、実施する調査であり、その結果を修学環境の改善に役立たせているほか、内外に公開することにより、本学の質保証データとして可視化するという目的をもっています。

さて、今年度の調査結果ですが、まず本学の学生にとって、大学で学ぶ知識は決して簡単に習得できるものではないということが明らかです。しかし学生自身は知識習得の重要性を認識しており、学ぶ意欲を示しています。その一方で、学修時間の少なさに見られるように、現実の行動が伴っていない点が大きな課題でしょう。

では、いかにして学生たちの学習意欲をさらに高め、その習熟度を高めることができるのか。私たちはその解決を図らねばなりません。そのヒントは学業について教員と話をすると答えた45.8%の学生の存在にあります。おそらく卒業までの間、彼らは教員のアドバイスや励ましを得て、単位を修得していると推測されます。本学は「一人ひとりに寄り添った」教育上の特色を内外に掲げていますが、そうした本学ならではの姿勢が二人に一人の学生を支えていることはいまでもありません。

しかしその一方で、教員に相談しない、相談できない学生に対して、いかにアプローチするか、福祉学でいうところのアウトリーチが、大学としての大きな課題であるといえます。その意味で、4年間の大学生活を通じて成長が実感できるような教育カリキュラムの充実が課題の解決には欠かせません。初年次に開講している少人数のクラスで構成する基礎セミナーの導入は、そうした学生への支援を目的とする仕組みとして意図したものです。1年次にとどまらず、今後さらに2年次から4年次まで、すなわち入学から就職に至るまでの期間を視野に入れた少人数制カリキュラムを整える必要性を痛感しているところです。学業にとどまらず、将来設計の不安を感じている学生が81.8%という高率を示しているだけに、社会への助走期間における学生支援は今後もますます重視されると考えています。

また、アルバイトについていえば、本学の場合、経済的な事情により従事する学生が少なくないと推測されます。その一方で、アルバイトによって社会性を獲得する、協調性や問題発見等の社会人基礎力の重要性を学外の組織に身を置いて初めて意識する学生も存在します。したがって、大学としてもアルバイトのあり方について、その内容と併せて位置づける必要があります。たとえば、今後の可能性として下級生への学習指導や自らが希望する就職先における体験学習など、学業の妨げとならない、むしろ学業と有機的につながるような収入の道を工夫することも大学としての検討課題でしょう。

2人に1人が大学に進学する今、学ぶすべての学生に対して、その勉学を支えるだけでなく、良き市民として育成する責任が本学にはあります。それだけに調査から浮き彫りとなった学生の声、ニーズを全教職員が真摯に受けとめ、教育の質を保証したいと考えています。

序章 調査の概要

本調査は2020年10月から11月に、本学学部に所属する学生を対象に行った。

調査は、1年次の必修科目である「基礎セミナーⅡ」を履修する学生204人、2年次の必修科目である「キャリア支援Ⅰ-B」を履修する学生146人、3年次の必修科目である「キャリア支援Ⅲ-B」を履修する学生160人と4年次で「キャリア支援Ⅳ-B」、「国家試験対策講座」、「保育・教職実践演習」を受講する学生125人を対象として行った。回答者の所属学科、学年、性別の内訳は、表1のとおりである。

在籍に対する回答者の割合は、1年生が183人(89.7%)、2年生が120人(82.2%)、3年生が137人(85.6%)、4年生が95人(52.5%)、学年未記入等が2人で、全体で537人(77.7%)と1年生から3年生の8割以上が回答した。

表1 学生生活調査回答者の内訳

2020年11月1日現在

学年	学科	女子		男子		性別不明	合計	
		在籍	回答者	在籍	回答者	回答者	在籍	回答者
1	心理	64	60	38	32	0	102	92
	健康	14	13	12	11	0	26	24
	子ども	49	44	27	23	0	76	67
2	心理	45	33	40	27	6	85	66
	健康	6	6	13	10	1	19	17
	子ども	24	21	18	16	0	42	37
3	心理	47	43	27	23	2	74	68
	医療	7	6	10	6	0	17	12
	健康	13	11	19	7	10	32	28
	子ども	21	15	16	11	2	37	28
	未記入		0		1	0	0	1
4	心理	46	18	43	21	4	89	43
	医療	10	3	6	2	1	16	6
	健康	14	1	12	4	2	26	7
	子ども	33	20	17	9	10	50	39
未記入	心理		0		0	1	0	1
	子ども		0		0	1	0	1
合計		393	294	298	203	40	691	537

※在籍者数には、休学者を含む

また、本調査は、学業、進路・キャリア支援、学生生活、大学に関する4つの領域から構成され、各項目に対して、選択形式または自由記述の形式で回答を得た。その具体的な質問内容と回答について、以下の章で述べる。

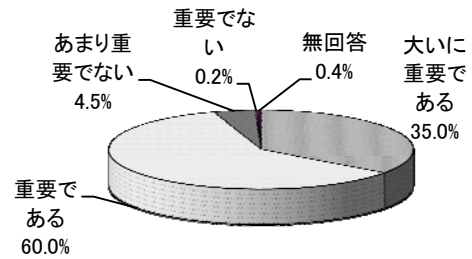
なお、以下の各質問項目の集計結果については、小数点第二位を四捨五入した結果を用いている。

第1章 学業

1-1 大学での勉強の重要性

「将来にとって、本学で勉強することはどの程度重要だと思いますか」とたずねたところ、「大いに重要である」が35.0% (188人)、「重要である」が60.0% (322人)、「あまり重要でない」が4.5% (24人)、「重要でない」が0.2% (1人)という結果であった。「大いに重要である」と「重要である」をあわせると95.0%と9割以上に達し、多くの学生が将来を考えて授業を履修し、勉強していることが分かる。

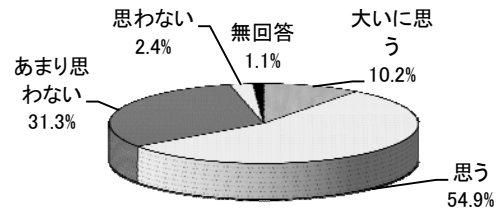
将来における大学での勉強の重要性



1-2 授業に対する理解

「本学の授業全般について、難しいと思いますか」とたずねたところ、「大いに思う」が10.2% (55人)、「思う」が54.9% (295人)、「あまり思わない」が31.3% (168人)、「思わない」が2.4% (13人)という結果であった。「大いに思う」と「思う」と回答した学生をあわせると65.1%と6割以上の学生が授業全般について難しいと回答しており、授業内容を十分に理解できていない学生が多くいる可能性がうかがえる。

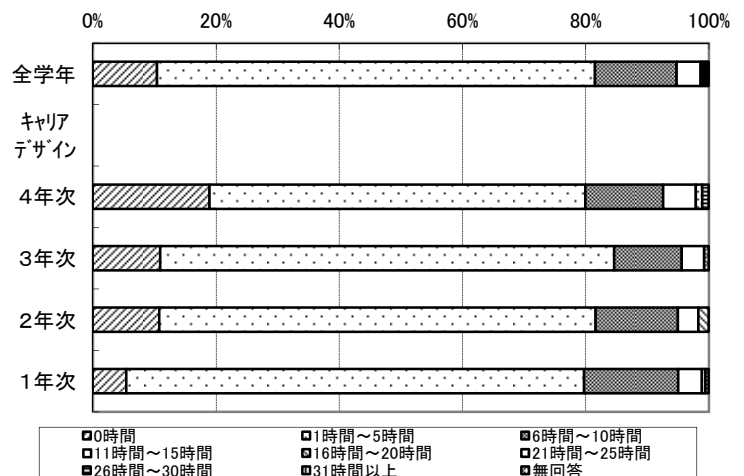
授業全般について難しいと思いますか？



1-3 学修時間

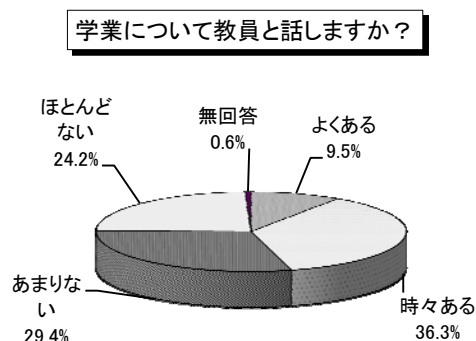
「1週間(7日間)あたり、予習・復習・課題など授業に関する勉強をどのくらいしていますか」とたずねたところ、「0時間」が10.4% (56人)、「1時間～5時間」が71.1% (382人)、「6時間～10時間」が13.2% (71人)、「11時間～15時間」が3.9% (21人)、「16時間～20時間」が0.4% (2人)、「21時間～25時間」が0.4% (2人)、「26時間～30時間」が0.4% (2人)、「31時間以上」が0.0% (0人)という結果であった(無回答1人)。「0時間」と「1時間～5時間」をあわせると8割以上になり、勉強時間の少ない学生が多いことが示された。

授業のための勉強時間は？



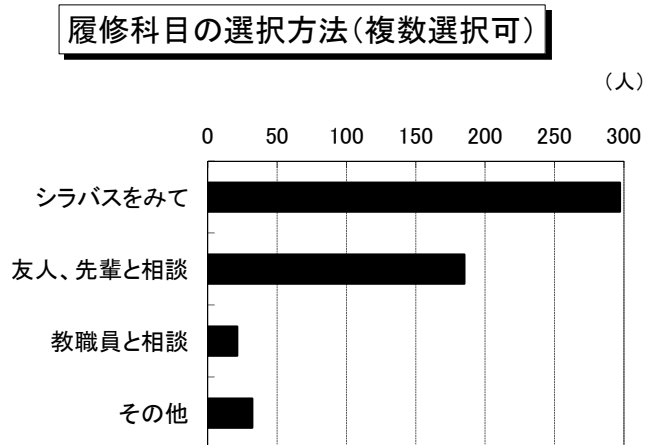
1-4 学業についての教員との会話

「学業について教員と話をすることがあります（授業での質問を含む）」とたずねたところ、「よくある」が9.5%（51人）、「時々ある」が36.3%（195人）、「あまりない」が29.4%（158人）、「ほとんどない」が24.2%（130人）という結果であった。このように、教員との学業に関する会話は、45.8%の学生が「よくある」「時々ある」と回答した一方、53.6%の学生が「あまりない」「ほとんどない」と回答しており、二分される傾向が示された。



1-5 履修科目の選択方法

「履修する科目をどのようにして選びますか（複数回答可）」とたずねたところ、「シラバスをみて」が55.3%（297人）、「友人、先輩と相談」が34.5%（185人）、「教職員と相談」が3.9%（21人）、「その他」が6.0%（32人）という結果であった。「シラバスをみて」と「友人、先輩と相談」をあわせると89.8%と8割以上に達した。



FD委員会からのコメント

1. 学業について

1-1 大学での勉強の重要性について

大学での勉強の重要性については、95%の学生が「大いに重要である」または「重要であると」認識していました。多くの学生が本学で勉強することに重要性を感じているのは、資格取得など将来への希望を持っているためと考えられます。このような学生の授業に対する期待に応えるために、授業の内容および方法を改善し向上させるための組織的な取り組みを進めていきたいと考えております。

1-2 授業に対する理解について

授業に対する理解については、6割以上の学生が授業全般について難しいと感じている結果となりました。これは、授業の内容を十分に理解できていない学生が多くいる可能性を示すものと考えられます。本アンケートではどのような理由で授業が難しいと感じているかは不明であることから、授業が難しいと感じた理由を明らかにしていく試みが必要であると考えます。FD委員会では、授業期間内での速やかな授業改善を目的として「授業に関する意見箱」を設置しています。授業が難しいと感じた理由を担当教員に伝えることは、授業の改善だけでなく、授業の理解度を高めることにも繋がると考えられます。学生皆さんからの意見は、授業改善のために必要なものですので、授業に関する意見箱や学期末に実施される授業アンケートを有効に活用してください。

1-3 学習時間について

学習時間は、1週間のうち0～5時間が8割以上という結果でした。この結果は多くの学生が授業時間以外での勉強時間が少ないことを示すものと考えられます。大学では専門的な内容を学習することから、授業時間以外での学習は授業内容を自分に定着させるために重要なものです。FD委員会では、自主的な勉強に繋がるような授業内容および方法についての研修会の計画を策定していきたいと考えております。

1-4 学業についての教員との会話について

約半数の学生が「あまりない」「ほとんどない」と回答していました。この回答は「授業での質問」も含まれることから、学生が積極的に授業に参加するような授業が実施されていない可能性が考えられます。学生による積極的な授業への参加は、授業内容の理解にも繋がると考えられることから、FD委員会では、積極的な授業参加に繋がるような授業内容および方法についての研修会の計画を策定していきたいと考えております。

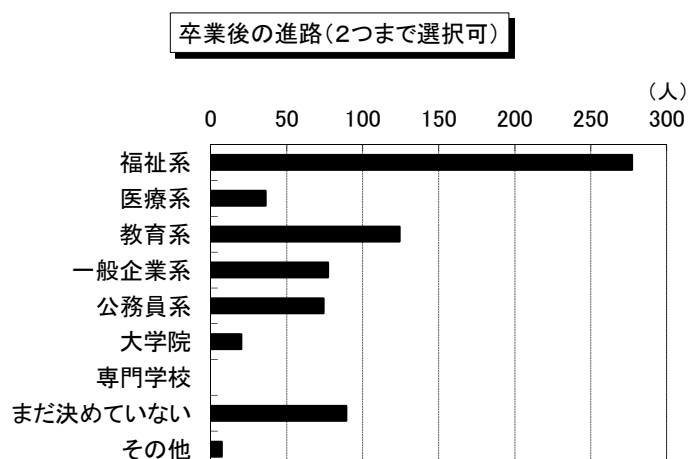
1-5 履修科目の選択方法

履修科目の選択方法は、「シラバスをみて」が約半数を占めていることから、履修のためにシラバスを重要視していることが分かります。本学では、分かりやすいシラバスを作成するために、シラバス作成に関するFD研修会を実施しております。今後もこのような試みを実施していく予定です。

第2章 進路・キャリア支援

2-1 卒業後の進路

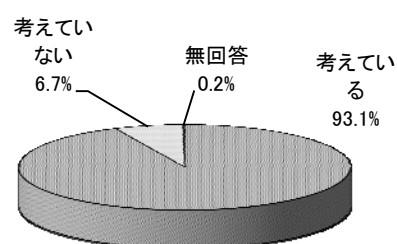
「卒業後の進路をどのように考えていますか（主なもの2つ）」とたずねたところ、「福祉系」が51.6%（277人）と半数以上を占め、つぎに「教育系」が23.1%（124人）、さらに「一般企業系」が14.3%（77人）、「公務員系」が13.8%（74人）、「医療系」が6.7%（36人）、「大学院」が3.7%（20人）、「専門学校」が0.0%（0人）、「まだ決めていない」が16.6%（89人）であった。「その他」の内容は、心理系に就職、イラスト関連の仕事、通信の大学などの記載がみられた。



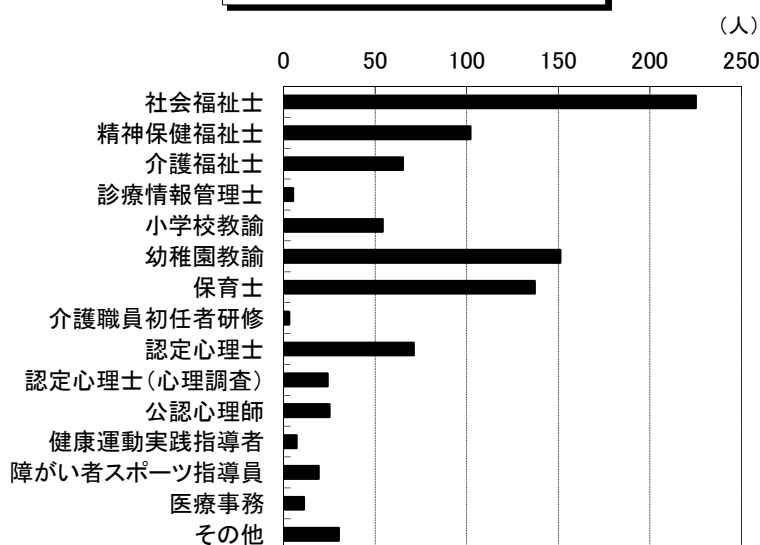
2-2 取得したい資格

「就職などにつながる資格、免許を取得したいと考えていますか」とたずねたところ、「考えている」が93.1%（500人）、「考えていない」が6.7%（36人）であった。「考えている」の具体的な内容（複数回答可）としては、「社会福祉士」が45.0%（225人）、「精神保健福祉士」が20.4%（102人）、「介護福祉士」が13.0%（65人）、「診療情報管理士」が1.0%（5人）、「小学校教諭」が10.8%（54人）、「幼稚園教諭」が30.2%（151人）、「保育士」が27.4%（137人）、「介護職員初任者研修」が0.6%（3人）、「認定心理士」が14.2%（71人）、「認定心理士（心理調査）」が4.8%（24人）、「公認心理師」が5.0%（25人）、「健康運動実践指導者」が1.4%（7人）、「障がい者スポーツ指導員」が3.8%（19人）、「医療事務」が2.2%（11人）という結果であった。「その他」の内容は、社会福祉主事、特別支援学校教諭、認定販売士、臨床心理士などの記載がみられた。

資格、免許の取得を考えていますか？



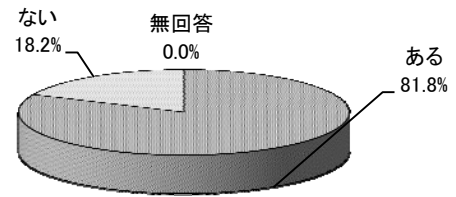
取得したい資格、免許(複数選択可)



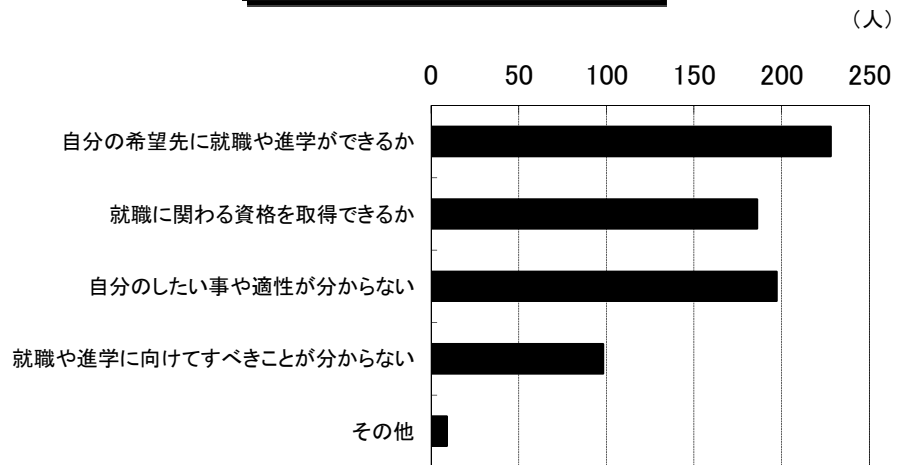
2-3 将来設計（進路）への不安

「将来設計（進路）について不安がありますか」とたずねたところ、「ある」が81.8%（439人）、「ない」が18.2%（98人）、無回答は0人であった。「ある」の具体的な内容（複数回答可）としては、「自分の希望先に就職や進学ができるか」が51.9%（228人）、「就職に関わる資格を取得できるか」が42.4%（186人）、「自分のしたい事や適性が分からない」が44.9%（197人）、「就職や進学に向けてすべきことが分からない」が22.3%（98人）という結果であった。「その他」の内容は、希望先が定まらない、卒業できるか、どこに進学すべきかわからない、破産しないか等があげられた。

将来設計に不安がありますか？



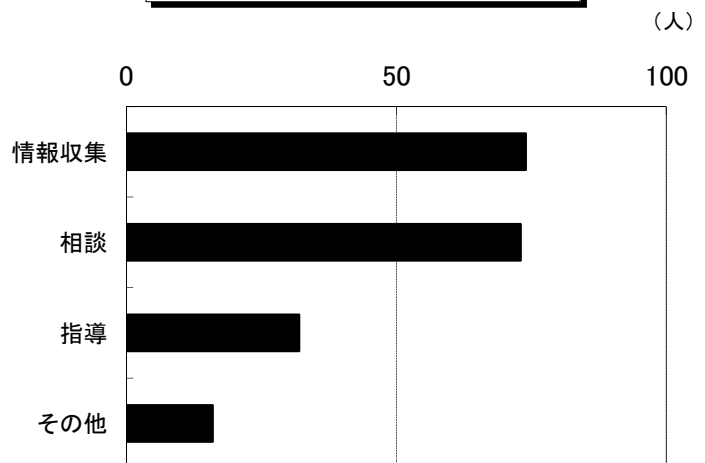
将来設計についての不安（複数選択可）



2-4 キャリア支援課の活用

「キャリア支援課を利用したことがある方は、利用した内容を教えてください（複数回答可）」とたずねたところ、「情報収集」が13.8%（74人）、「相談」が13.6%（73人）、「指導」が6.0%（32人）、「その他」は3.0%（16人）という結果であった。「その他」の内容は、書類の提出、資料をもらいに行った、勉強を教えてもらった、履歴書購入・作成、報告等があげられた。

キャリア支援課の利用内容（複数選択可）



2-5 キャリア支援課への要望や質問

14名の記述があった。要望としては、「県外の情報がほしい」「将来設計についてまず何から始めればいいのか、アドバイスをいただきたい」「どのようなサポートが可能か具体的な例を挙げ情報をオープンにしてもらいたい」などがあった。質問としては、「要予約なのかそうでないのか知りたいです」などがあった。

キャリア支援課からのコメント

2-1 卒業後の進路

今年度は新型コロナウイルス感染症禍の中で、就職環境は従前と大きく様変わりしてきています。就活スタイルも対面型の合同説明会や面接試験などが中止になり、Webによるオンライン面接などに変わってきています。こうした就職環境の変化の中で、学生の皆さんが卒業後の進路として、約60%の方が「福祉・医療」分野への就職を希望しています。「一般企業・公務員系」分野に進む学生も増えている傾向にありますが、一般企業に進んだ学生の多くは、大学で学んだ「福祉」の心や精神、コミュニケーション力などを活かしての就職となっています。一方で全国的に減少傾向であった公務員希望者については、コロナ禍の影響もあり、一般企業には待遇や安定という面で不透明性がある中で、より安定性を求め公務員を志望する学生が増えており、本学でも10%以上の方が希望しています。

在校生の皆さんは、それぞれの学年に応じて、自分自身の進路について真剣に考えていただき、将来のキャリア・プランを描いてください。そしてその到達点に向けて、何が必要なのか、何をすべきなのかをしっかりと把握してください。そこから自分自身のキャリア形成がスタートします。

2-2 取得したい資格

本学は、学生の資格取得を推奨しています。また、90%以上の学生は、「就職などにつながる資格を取得したいと考えている」と回答しています。資格取得という目標を立て、実行していくことで社会に役立つ実践能力を身につけるとともに、自分自身の大きな自信につながっていきます。

2-3 将来設計（進路）への不安

将来設計に関しては、81.8%の学生は就職や進学問題、自分の適正が不明などの不安を抱えています。皆さんが抱える「不安」については、情報不足や知識不足を克服することで多くは解消することができます。

キャリア支援の授業を受講して、情報や知識を補完してください。また、キャリア支援課では、皆さんの不安に対し、情報収集の方法などの助言やさまざまな相談に対応していますので気軽に立ち寄りください。

2-4 キャリア支援課の活用

キャリア支援課では、学生の皆さんの就職活動がスムーズに進むように、就職活動本番に向けての準備のお手伝いから、就職活動が終了するまで、求人情報等の提供やガイダンスの開催、就職相談などの就職活動全般にわたり支援しています。今後も皆さんの期待に応えられるように、支援の在り方について、さらに向上していけるよう努めていきます。キャリア支援課は、皆さんの就職活動の応援団であり、アドバイザーであり、コンサルタントであると考えています。皆さんの希望を真摯に受け止め、実現に向けての手助けができるよう全力でサポートしていきます。

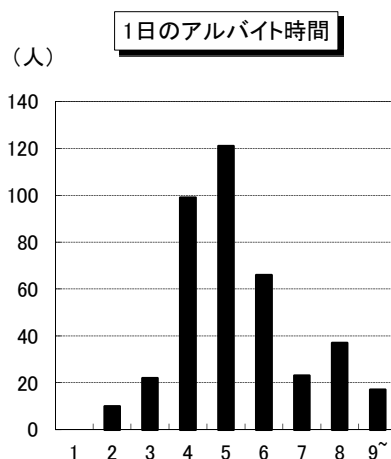
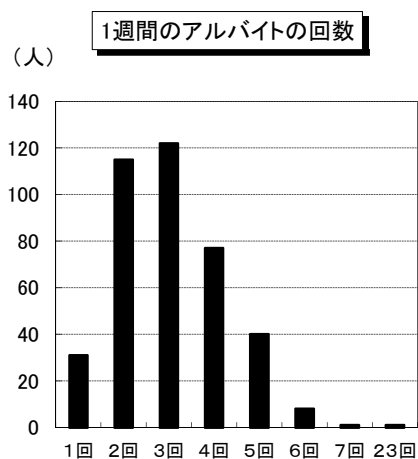
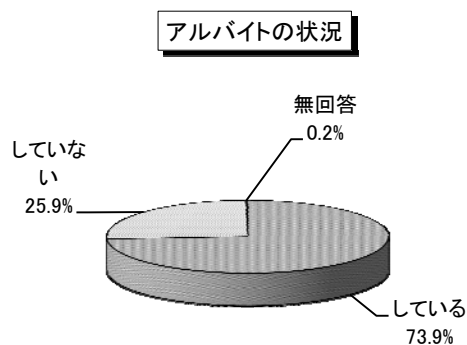
2-5 キャリア支援課への要望

キャリア支援課へ多くの要望をいただき、その責任の重さを実感しております。学生の皆さんの期待に答えられるように教職員、関係機関と連携を図り、支援のあり方や手法について検討し、レベルの向上を目指します。また、ご質問のあったキャリア課への予約については、コロナ感染予防のため「3密」を避けるためにも事前予約をお願いします。今後でもできる限り学生の皆さんが利用しやすく、相談しやすい組織体制を構築していきたいと考えております。

第3章 学生生活

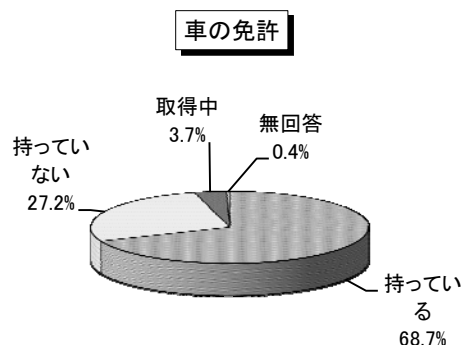
3-1 アルバイトの状況

「アルバイトをしていますか」とたずねたところ、「している」が73.9% (397人)、「していない」が25.9% (139人)であった。1週間のアルバイトの回数は3回が多く、1日に従事する時間は平均4~5時間が多かった。また、10人の学生(397人中2.5%)に週6回以上との回答が、54人の学生(397人中13.6%)に1日平均8時間以上との回答がみられた。一方、「していない」と回答した学生のうち、「アルバイトを希望」は38.1% (53人)、「アルバイトを希望していない」は28.8% (40人)であった。アルバイトは手軽に収入を得る方法として学生の日常生活の一部にまでなっており、それだけに安易なアルバイトが学業をおろそかにしてしまう危険性も多分にあるため注意が必要である。



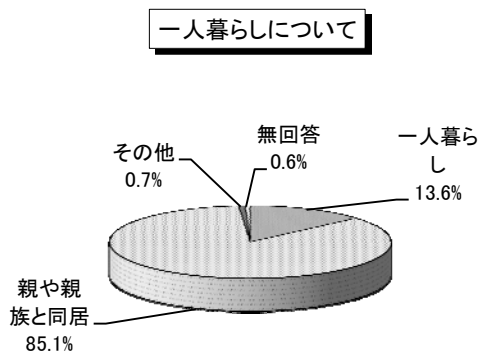
3-2 車の免許

「車の免許を持っていますか」とたずねたところ、「持っている」が68.7% (369人)、「持っていない」が27.2% (146人)、「取得中(自動車学校に通学中など)」が3.7% (20人)であり、7割弱の学生が車の免許を取得していることが示された。学年によって差があると思われるが、通学や実習、就職等を考えて、卒業までに多くの学生が取得を目指している。



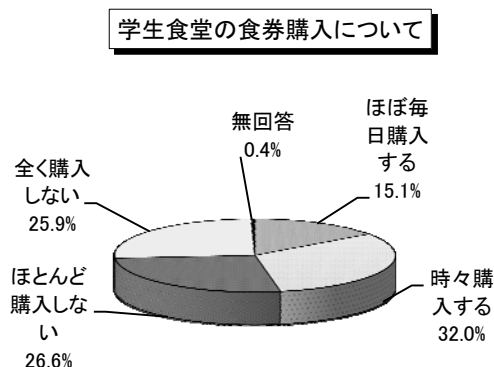
3-3 同居家族の有無

「現在、授業がある時期は一人暮らしをしていますか」とたずねたところ、「一人暮らし」13.6% (73人)、「親や親族と同居」85.1% (457人)で、8割以上の学生が親や親族と同居をしていることが示された。「その他」の内容は、下宿があげられた。



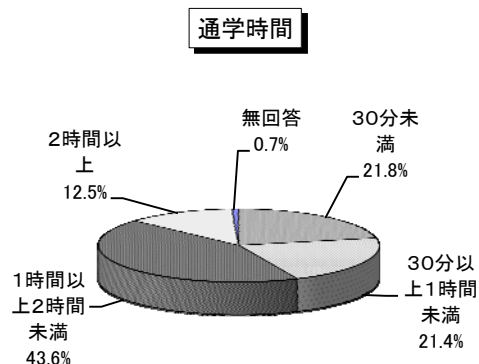
3-4 学生食堂

「学生食堂でどのくらいの頻度で食券を購入しますか」とたずねたところ、「ほぼ毎日購入する」が15.1% (81人)、「時々購入する」が32.0% (172人)、「ほとんど購入しない」が26.6% (143人)、「全く購入しない」が25.9% (139人)という結果であった。



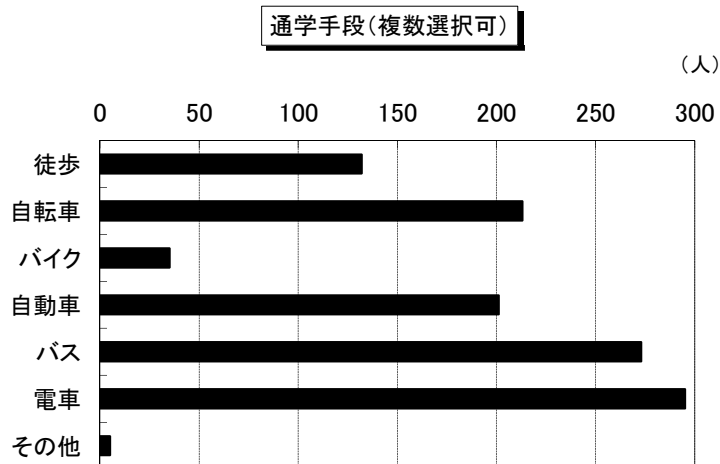
3-5 通学時間

「普段の通学時間はおよそどのくらいですか」とたずねたところ、「30分未満」が21.8% (117人)、「30分以上1時間未満」が21.4% (115人)、「1時間以上2時間未満」が43.6% (234人)、「2時間以上」が12.5% (67人)という結果であった。通学時間が1時間以上の学生が約5割をしめている。



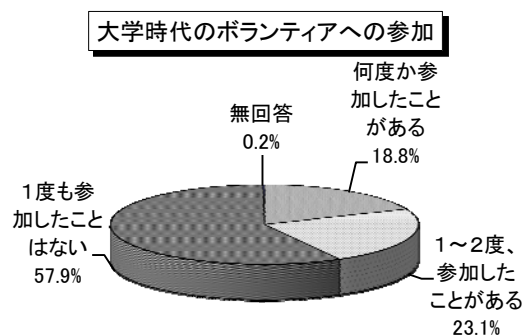
3-6 通学手段

「普段、どのような通学手段をとっていますか。使っている全ての手段を答えてください」とたずねたところ、「徒歩」が24.6% (132人)、「自転車」が39.7% (213人)、「バイク」が6.5% (35人)、「自動車」が37.4% (201人)、「バス」が50.8% (273人)、「電車」が54.9% (295人)であり、電車、バス、自転車を手段としている学生が多いと共に、他大学に比べて、自動車が約4割と高いことが示された。



3-7 大学でのボランティア活動への参加

「本学に入学してから現在までの間で、ボランティア活動に参加したことがありますか」とたずねたところ、「何度か参加したことがある」18.8%（101人）、「1～2度、参加したことがある」23.1%（124人）、「1度も参加したことはない」57.9%（311人）という結果であった。ボランティア活動の参加経験がある学生は4割弱であった。

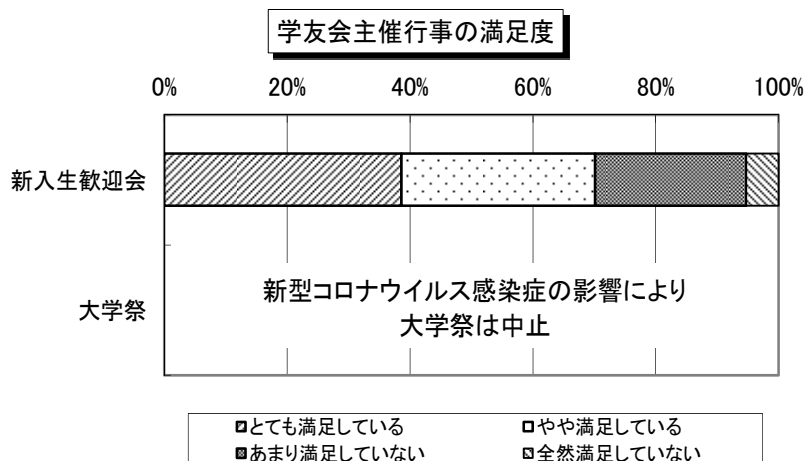


3-8 学友会主催行事の満足度

2020年度の11月までに学友会が実施した行事への参加割合についてたずねたところ、参加した学生の割合は、「新入生歓迎会」22.2%であった。

さらに、参加者に「今年、学友会主催の行事に参加した方に伺います。満足しましたか」とたずねた。「新入生歓迎会」における「とても満足している」「やや満足している」は67.2%（119人中80人）であった。

※2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大学祭は中止となりました。

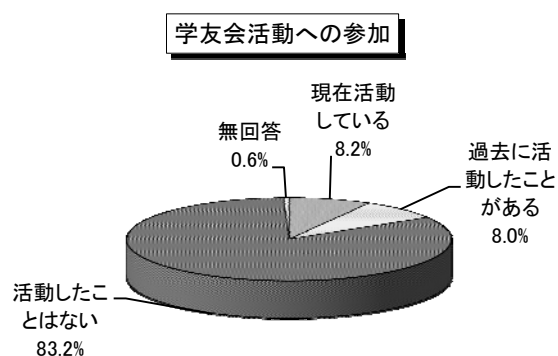


3-9 3-8 にあげた行事に対する要望や意見

9名の記述がみられた。新入生歓迎会については「具体的な説明や先輩方のやる気が見られなかったのでやるならとことんやってほしい」「コロナで大変な時期に、色々な人が頑張っていて開催できたと思う。人が来なかったりと、ハプニングもあったが、良かったと思う。」「より、発展していくよう盛り上げていきましょう。」などの意見がみられた。他の意見として、「参加したいのですが、コロナ禍なので、しかたないと思います。」などがみられた。

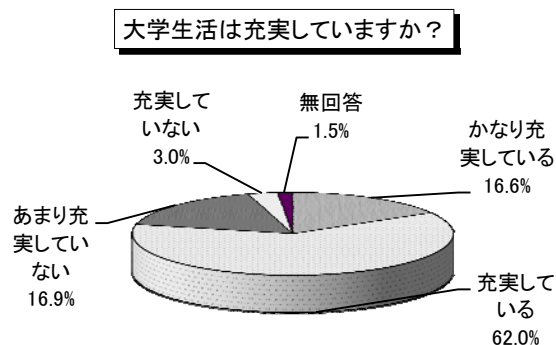
3-10 学友会活動への参加

「代議委員会、体育会・文化会、大学祭実行委員会、卒業記念委員会のいずれかで活動したことはありますか」とたずねたところ、「現在、活動している」が8.2%（44人）で、「過去に活動したことがある」が8.0%（43人）、「活動したことはない」が83.2%（447人）という結果で、学友会活動に参加経験のある学生は1割強であることが示された。



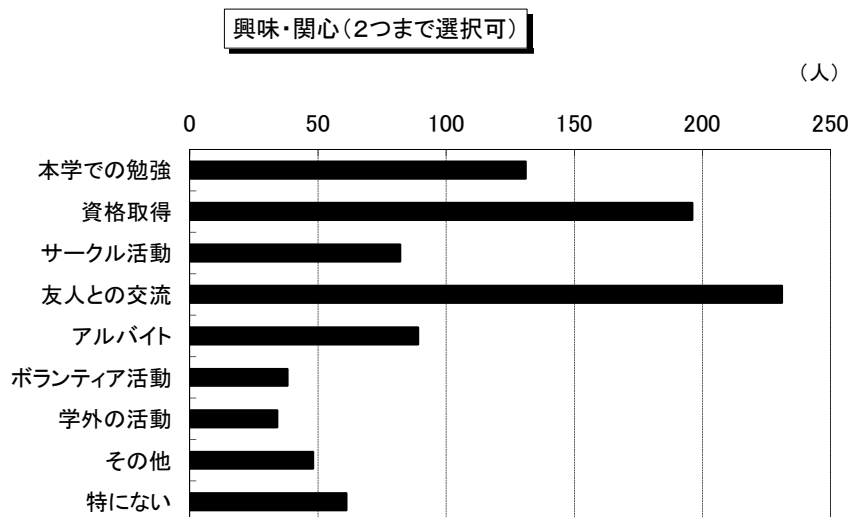
3-11 大学生生活の充実度

「大学生生活は充実していますか（楽しいですか）」とたずねたところ、「かなり充実している」が16.6%（89人）、「充実している」が62.0%（333人）、「あまり充実していない」が16.9%（91人）、「充実していない」が3.0%（16人）であり、7割強の学生に大学生生活は充実しているとの回答が示された。



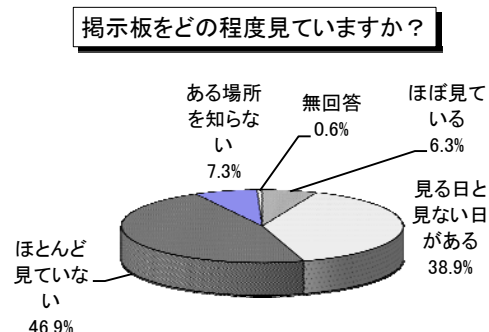
3-12 興味・関心

「現在、興味や関心を持って行っていることは何ですか（主なもの2つ）」とたずねたところ、8項目の中で、最も高かったのは「友人との交流」43.0%（231人）、ついで「資格取得」36.5%（196人）であり、この2点への興味・関心が他の項目に比べて高いことが示された。3番目に興味・関心が高いのは「本学での勉強」24.4%（131人）であった。



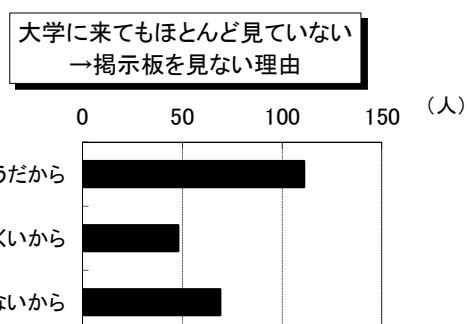
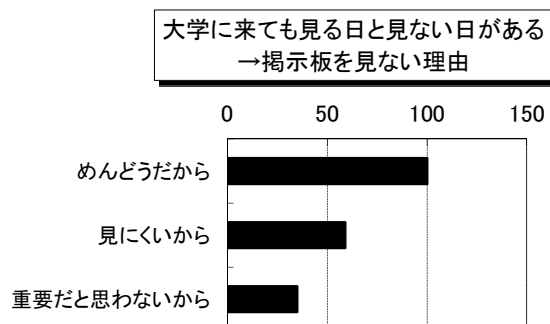
3-13 掲示板的の使用

「掲示板（教務、学科、資格取得支援など）をどの程度見えていますか」とたずねたところ、「ほぼ大学に来るたびにしている」が6.3%（34人）、「大学に来ても見る日と見ない日がある」が38.9%（209人）、「大学に来てもほとんど見ていない」が46.9%（252人）、「掲示板のある場所を知らない（だから見ていない）」が7.3%（39人）という結果であった。



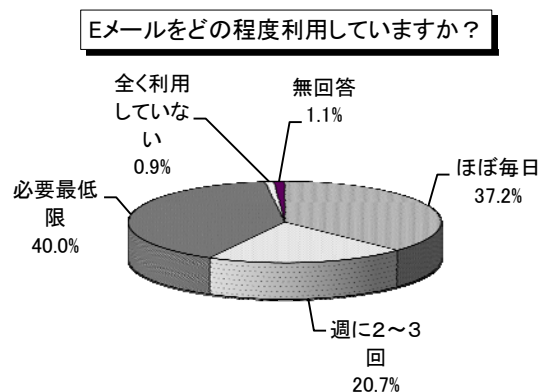
さらに「大学に来ても見る日と見ない日がある」「大学に来てもほとんど見ていない」と回答した方に理由をたずねた。

「大学に来ても見る日と見ない日がある」と回答した人は「めんどうだから」が47.8%（100人）、「見にくいから」が28.2%（59人）、「重要だと思わないから」が16.7%（35人）であった。「大学に来てもほとんど見ていない」と回答した人は「めんどうだから」が44.0%（111人）、「見にくいから」が19.0%（48人）、「重要だと思わないから」が27.4%（69人）であった。



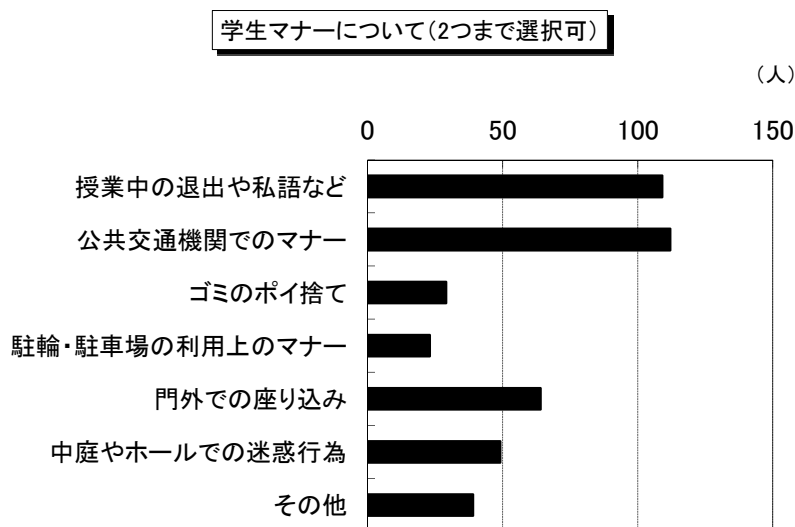
3-14 Eメールの利用

「大学のEメールをどのくらい利用（メールのチェックや送受信）していますか」とたずねたところ、「ほぼ毎日」が37.2%（200人）、「週に2～3回」が20.7%（111人）、「必要最低限（授業などで）」が40.0%（215人）、「全く利用していない」が0.9%（5人）という結果であった。



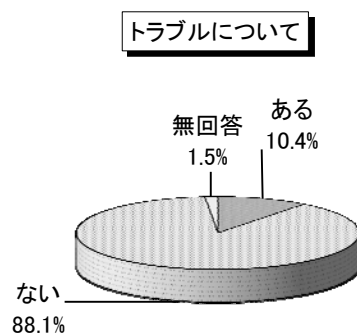
3-15 学生マナーについて

「本学の学生が改善したほうがよいと思うマナーはありますか（主なもの2つ選択）」とたずねたところ、「ある」が56.2%（302人）、「ない」が43.0%（231人）という結果であった。改善すべき点については、「授業中の退出や私語など」が36.1%（109人）、「公共交通機関でのマナー」が37.1%（112人）、「ゴミのポイ捨て」が9.6%（29人）、「駐輪・駐車場の利用上のマナー」が7.6%（23人）、「門外での座り込み」が21.2%（64人）、「中庭やホールでの迷惑行為」が16.2%（49人）、「その他」が12.9%（39人）という結果であった。「その他」の内容には、喫煙者のマナー、喫煙場所、バス停で待っている時に広がっている、食堂で爆音にして音楽を流す、先生への言葉遣い等の記載内容があった。



3-16 学内外でのトラブル

「本学に入学してから現在までの間に、学内外でトラブルにあったことがありますか」とたずねたところ、「ある」が10.4%（56人）、「ない」が88.1%（473人）であった。具体的なトラブルの内容（複数回答可）は、高い順に「交通事故」が28.6%（16人）、「ハラスメント（嫌がらせ）」が26.8%（15人）、「盗難」が17.9%（10人）、「宗教勧誘・マルチ商法」が14.3%（8人）、「ストーカー行為・デートDV・脅迫」が12.5%（7人）、「悪徳セールス」は1.8%（1人）であった。「その他」への記載は盗撮、電車内でのチカン、人間関係の記載がみられた。

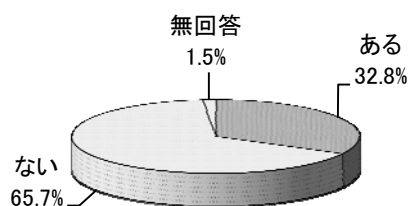


3-17 学生生活への悩み

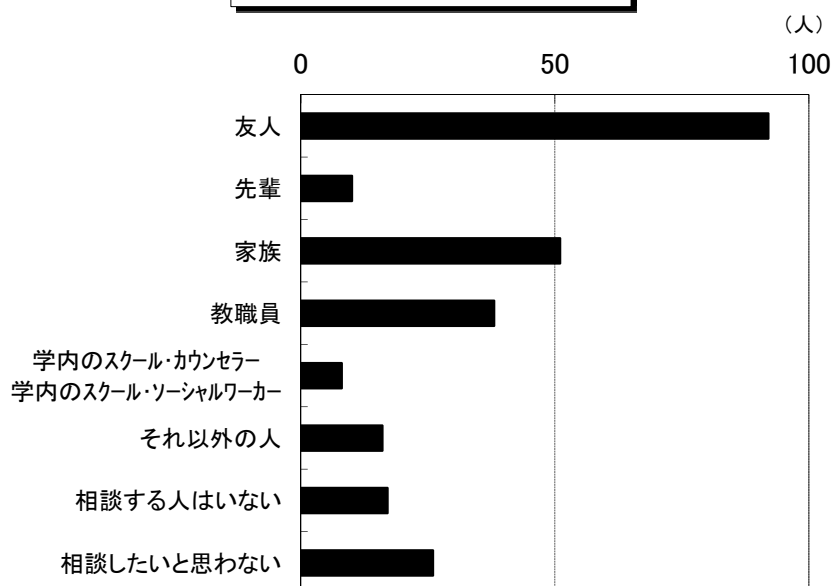
「現在、学生生活に関して悩みがありますか」とたずねたところ、「ある」が32.8% (176人)、「ない」が65.7% (353人)であった。「ある」の回答者に、「悩みを誰かに相談していますか」とたずねたところ、「友人」52.3% (92人)と「家族」29.0% (51人)が多く、ほかに「先輩」5.7% (10人)、「教職員」21.6% (38人)、「学内のスクール・カウンセラー、学内のスクール・ソーシャルワーカー」4.5% (8人)、「それ以外の人」9.1%

(16人)であった。その一方、「相談する人はいない」9.7% (17人)、「相談したいと思わない」14.8% (26人)との回答もみられた。また、「ある」の回答者に「内容」をたずねたところ、高い順に「学業面の問題」35.8% (63人)、「人間関係」32.4% (57人)、「健康面の問題」12.5% (22人)、「経済的事情」8.0% (14人)、「進路変更したい」4.5% (8人)、「その他」2.8% (5人)となった。

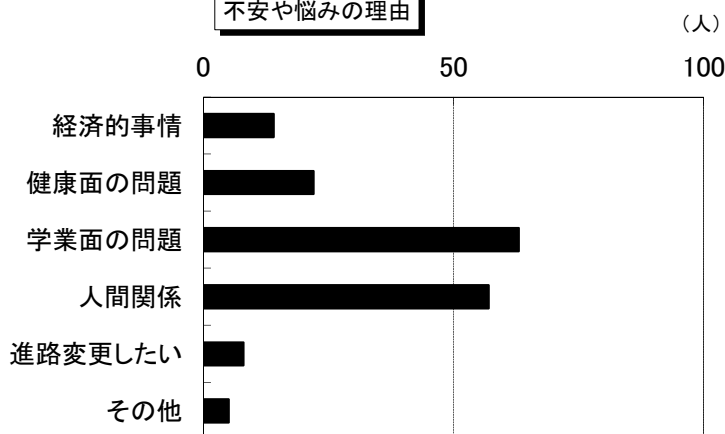
学生生活への悩み



不安や悩みの相談相手(複数選択可)

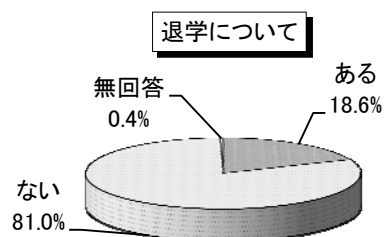


不安や悩みの理由



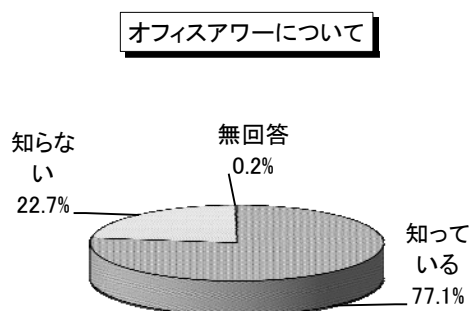
3-18 退学について

「本学を退学することについて考えたことがありますか」とたずねたところ、「ある」18.6% (100人)、「ない」81.0% (435人)であった。退学を考えた理由は、高い順に「学業面の問題」が26.0% (26人)、「経済的事情」が25.0% (25人)、「進路変更したい」が24.0% (24人)、「人間関係」が23.0% (23人)、「健康面の問題」10.0% (10人)であった。「その他」の内容には、授業内容に有用性を感じないため、興味がうすい、通信授業がつかなくて、自分に合っていない。働きたい等の記載がみられた。



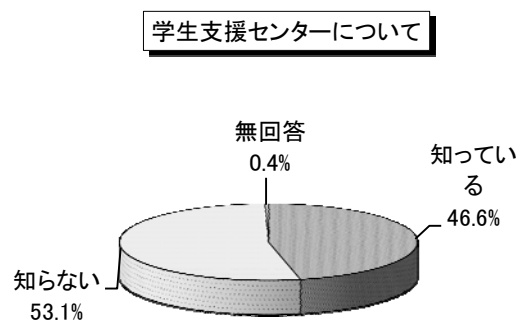
3-19 オフィスアワーについて

「オフィスアワーを知っていますか」とたずねたところ、「知っている」77.1% (414人)、「知らない」22.7% (122人)であった。さらに、「知っている」と回答した学生に利用したことがあるかについてたずねたところ、「利用したことがある」と回答した学生は22.0% (91人)であった。



3-20 学生支援総合センターについて

「学生支援総合センターを知っていますか」とたずねたところ、「知っている」が46.6% (250人)、「知らない」が53.1% (285人)であった。さらに、「知っている」と回答した学生に利用したことがあるかをたずねたところ、「利用したことがある」と回答した学生は8.4% (21人)であった。



学生支援総合センターからのコメント

3-16 学内外でのトラブルについて

本学に入学してから現在までに学内外でトラブルにあったことがあると回答した学生が10.4%と昨年より減少傾向となっております。また昨年同様に「交通事故」が最も多く次に「ハラスメント（嫌がらせ）」となっております。次に「盗難」「宗教勧誘・マルチ商法」そして「ストーカー行為・デートDV・脅迫」の順となっております。学生支援総合センターでは、よりよい学生生活を送るために学生同士の人間関係を含め困ったことがあったら、各教員のオフィスアワーや基礎セミナーのクラス担当やゼミの教員などにも相談し、早期の解決をはかって欲しいと思います。また、スクールソーシャルワーカー（SSW）やスクールカウンセラー(SC)への面談など、どこでも相談が出来るような体制を取り、サポートいたします。

3-17 学生生活への不安や悩み

学生生活に関して悩みがありますかとの質問には、「ある」が32.8%となっており、その内容としては、学業面の問題に次いで人間関係の悩みとなっております。その不安や悩みについては「友人に相談している」が昨年に続き今年度も最も高くなっています。4.5%と利用率が低いですが、ひとりで悩みを抱え込まず学生支援総合センターの活用と専門職のSSW・SCに相談をお勧めいたします。

3-18 退学について

本学を退学することについて考えたことがありますかの質問には「ある」18.6%が回答しています。退学について考えた理由に「学業の問題」が多く次に「経済的事情」となっております。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の観点から、遠隔授業など新たな授業の取り組みがありました。学生にも多くの戸惑いもあったと思います。そのため学生支援総合センターでは5月から保健室を通して、電話での相談やメールでの相談体制を取ってきました。学生と共に考える場所が学生支援総合センターになります。

3-20 学生支援総合センターについて

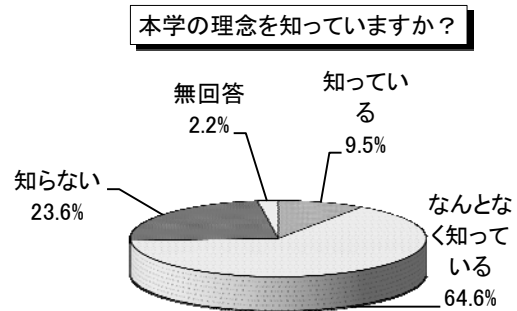
学生支援総合センターを知っていますかという質問に「知っている」46.6%で「知らない」が53.1%となっております。今年は、学生支援総合センターの案内パンフレットを作成し、AAAや本学のHPにも掲載いたしました。周知の方法を考えるようにしたいと思います。学生支援総合センターは、学生の皆さんが気軽に立ち寄れるようなシステムづくりと身近な存在となるようさらに学生支援総合センターの活動に取り組みたいと思います。

第4章 大学

4-1 本学の理念（建学の精神）の認知

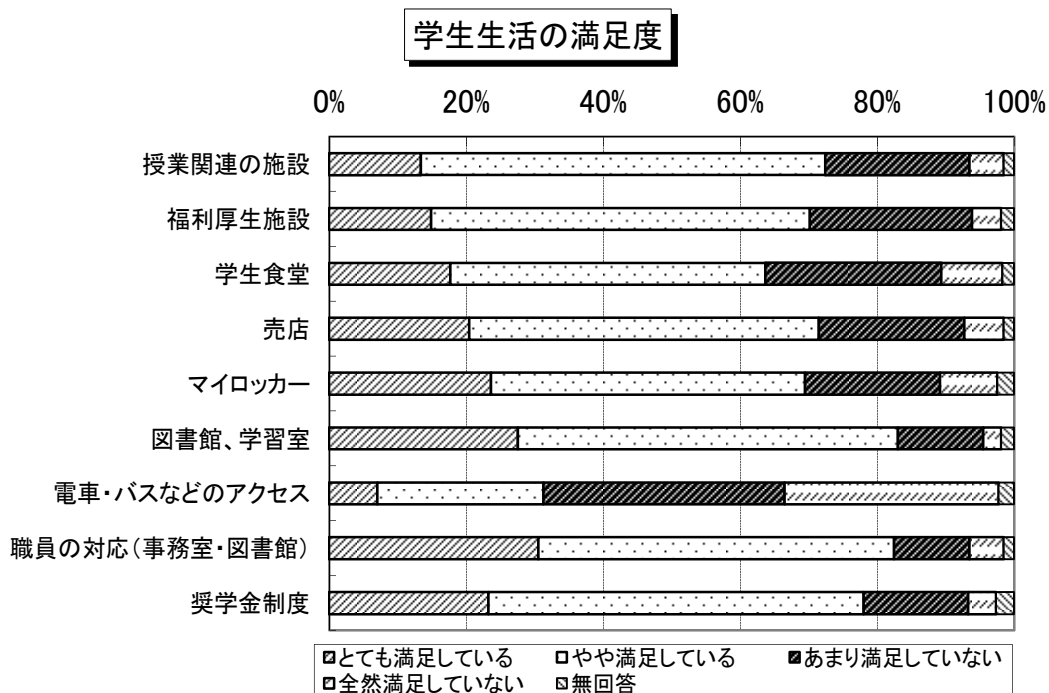
「本学の理念（建学の精神）を知っていますか」とたずねたところ、「知っている」が9.5%（51人）、「なんとなく知っている」が64.6%（347人）、「知らない」が23.6%（127人）であった。

大学ではその方法として、学内の掲示、大学ホームページ等を通じて、周知を行っている。しかし、2割以上が「知らない」と回答しており、さらに学生の認知度を高める工夫が必要である。



4-2 大学生生活の満足度

「次にあげた項目について、どの程度満足していますか」とたずねたところ、以下の結果が得られた。



「教室、体育館などの授業関連の施設」については、「とても満足している」13.4%（72人）、「やや満足している」59.0%（317人）、「あまり満足していない」21.0%（113人）、「全然満足していない」5.0%（27人）という結果であった。「トイレ、学生ホール、部室などの福利厚生施設」については、「とても満足している」14.9%（80人）、「やや満足している」55.3%（297人）、「あまり満足していない」23.6%（127人）、「全然満足していない」4.3%（23人）という結果であった。「学生食堂」については、「とても満足している」17.7%（95人）、「やや満足している」46.0%（247人）、「あまり満足していない」25.7%（138人）、「全

然満足していない」8.9% (48人) という結果であった。「売店」については、「とても満足している」20.5% (110人)、「やや満足している」51.0% (274人)、「あまり満足していない」21.2% (114人)、「全然満足していない」5.8% (31人) という結果であった。「マイロッカー」については、「とても満足している」23.6% (127人)、「やや満足している」45.8% (246人)、「あまり満足していない」19.7% (106人)、「全然満足していない」8.4% (45人) という結果であった。「図書館、学習室」については、「とても満足している」27.6% (148人)、「やや満足している」55.5% (298人)、「あまり満足していない」12.5% (67人)、「全然満足していない」2.6% (14人) という結果であった。「本学への電車・バスなどのアクセス」については、「とても満足している」7.1% (38人)、「やや満足している」24.2% (130人)、「あまり満足していない」35.2% (189人)、「全然満足していない」31.3% (168人) という結果であった。「事務室や図書館などにいる職員の対応」については、「とても満足している」30.5% (164人)、「やや満足している」52.0% (279人)、「あまり満足していない」11.0% (59人)、「全然満足していない」5.0% (27人) という結果であった。「奨学金制度」については、「とても満足している」23.3% (125人)、「やや満足している」54.7% (294人)、「あまり満足していない」15.3% (82人)、「全然満足していない」4.1% (22人) という結果であった。

以上のように、「大学生活の満足度」の全項目について比較すると、「大学への電車・バスなどのアクセス」についての満足度は際立って低い。

4-3 施設や制度、対応等大学への要望や意見

施設や制度、対応への要望や意見については、82名の記述がみられた。

内容の大半を占めていたのが、「バスの時刻」「バスの増便」といった大学と最寄り駅間のバスに関する要望であった。

バス以外に関する内容としては、①「Wi-Fiの設備」「エレベーター等を増やし、もっと福祉らしいキャンパスにしてください」「喫煙所の場所を変えてほしい」「体育館の北駐輪場のコケをどうにかしてほしい」「トイレの音姫が切れているところがある」などといった現状に対する要望や意見、②「空きコマに使える教室を一覧にしてほしい」「大講義室のイスが座りにくいです」「車いすの学生の移動が不便」「車いすや体の不自由な方でも使用できるお手洗いの数を増やせて頂けるととても嬉しいです」などの施設面への要望、③売店商品の充実化への要望、④「コロナの対応が中途半端です」「コロナウィルスの影響で前期に学校へ来ていなかった分施設費を戻してほしい」などの新型コロナウイルス感染症に対する意見が見られた。

学生厚生委員会からのコメント

学生厚生委員会は、学友会（代議員会・体育会文化会・学祭実行委員会・卒業行事委員会等）に関する支援を行い、また学生の皆さんがより良い大学生活を送ることができるように、さまざまな活動の支援や環境面の改善を目指して取り組んでいます。

第3章「学生生活」について

3-4「学生食堂」では、「ほぼ毎日購入する」「時々購入する」を合わせて47.1%でした。2020年度は新型コロナウイルス禍のため、学生食堂改善の話し合いを行うことができませんでしたが、約半数の学生が利用する食堂の改善に取り組んでいきたいと思えます。3-6「通学手段」では、バス、電車、自転車の利用が多く、他大学と比べて自動車が多いです。令和2年度は学生駐車場の整備を行い、利用しやすくしました。バスの時刻、バスの本数等についての要望が多く、直通バスの開始や、ダイヤの改定などを行ってはいませんが、なかなか解決できません。3-7「大学でのボランティア活動への参加」では、「1度も参加したことはない」が6割弱でした。学生の自主性・主体的を育むために、ボランティア活動の参加率を高めていきたいと考えます。3-8「学友会主催行事の満足度」ですが、総会はコロナ禍のため、書面評決で行いました。また、大学祭を中止しました。しかし、コロナ禍でも、トレジャーハンター（宝探し）、クリスマス会、新入生歓迎会を行うことができました。新入生歓迎会の参加率は22.2%と少なかったのですが、満足度は67.2%でした。3-10「学友会活動への参加」では、参加経験のある学生は1割強で学友会活動への参加も高めていきたいと思えます。3-11「大学生生活の充実度」は、7割強の学生が充実しています。さらにこの割合を高めていきます。3-15「学生マナー」については、「授業中の退出や私語など」が36.1%、「公共交通機関でのマナー」が37.1%でした。自由記述では、「裏口にたばこを吸う学生がたくさんいて入りにくい時がある。入る時にけむりを吸ってしまう。」「喫煙所がないため、門外でタバコを吸っており、入りにくい。」「喫煙所の場所を他の場所に変えてほしいです。→通りづらい。」「喫煙場が区切られておらず、タバコがよくポイ捨てされていて汚い。臭い。汚いから整理してほしい。」等喫煙に関するマナーについても意見が見られました。喫煙場所等に対して改善の要望を挙げています。

第4章「大学」について

4-2「大学生生活の満足度」では、調査項目すべての「とても満足している」「やや満足している」の平均を取ると約7割が満足しているとなっていますが、「大学への電車・バスなどのアクセス」についての満足度は際立って低くなっています。大学生生活の満足度を高めるために、施設の充実度を高める必要があります。

また、学修環境改善要望書の活用をすすめるために、キャンパスライフの手引きに掲載していきます。そして、学生の要望については要望書以外でも、いろいろなルートを使って幅広く声を吸い上げることも重要ではないかと考えます。

最後に、学生の皆さんには学友会活動へ積極的、主体的に参加し、その中から自分たちの要望や声が反映されるような大学生活にさせていただくことを望みます。学生厚生委員会は、これからもそのような活動をサポートしていきたいと思えます。

総務課からのコメント

(1) 公共交通機関のアクセスについて

最寄り駅からのアクセスの向上については現在、焼津市を含め、しずてつジャストラインと協議を行っております。バスの運行時間については、授業開始及び終了の時刻に合わせた路線バスの運行に重点を置き、調整に努めてまいります。

超低床ノンステップバスも運行しており、電動車いすの利用学生もバスを利用することが可能となっております。また、バスの乗降時の安全確保のため警備員の見回りの強化を行っております。

現状では西焼津駅からの通学環境の改善に向け、バス会社と焼津市に対し粘り強く交渉しているところです。

(2) 学内施設の改善・充実について

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、遠隔授業を行うための通信設備や機器の整備を行いました。その他、食堂の仕切りや消毒液及び除菌シートの設置を行っております。新型コロナウイルス感染の危険性が無くなるまで、自分以外の人にうつさない様に引き続きご配慮いただきますようお願いいたします。

次年度以降につきましては、現状のコロナ対策を継続するとともに、照明のLED化及びバリアフリー化の推進や外壁塗装を行い、環境整備に努めていきたいと思っております。

学生駐車場につきましては、アスファルト舗装をとの声もありますが、借地ということもありアスファルト舗装は難しいため、地面を固めた上で均し、駐車枠の整備を行い利用しやすいようにいたしました。

対応可能なものについては速やかに対応し、大規模な工事や費用が必要な改善については優先順位を考え長期計画を策定し、一つずつ改善していきたいと思っております。

また、喫煙所につきましては、喫煙スペースの整備も含め検討しておりますが、マナーの悪い方もいるため学内全面禁煙とさせていただく可能性もあります。節度のある対応を心掛けいただきますよう今一度お願いいたします。

(3) 学食・売店の向上について

学生からの意見や学食・コンビニ改善会議で意見を出来る限り反映できるように努めます。